本市議会の



議員席前に設置した発言席で行う一般質問のようす（一問一答方式）

質問内容（議案の内容以外の質問に限ります）
本市の行政全般にかかわる事務の執行状況や将来の方針等への疑問や提案などです。

質問時間
答弁を含め、一人当たり60分以内です。

福祉

地域共生社会の実現に向けて

問　**民生委員・児童委員は、地域住民の見守りのほか、行政や関係機関との橋渡しなど、地域共生社会の実現に欠かせない重要な役割を担っている。一方で、都市化の進展やライフスタイルの多様化等に伴う、近年の課題があると考えるが市の認識は。**

答　人と人とのつながりが希薄化する中、地域の見守り活動の困難さが増しているほか、地域によって抱える課題の違いもあると認識している。

問　**活動・相談記録や情報共有等のシステム化は、委員が活動しやすい環境づくりになると考える。DX推進への市の見解を聞きたい。**

答　DX推進は、委員の負担軽減と個人情報保護の両面で重要と考える。本市は、民生委員・児童委員全員にモバイルパソコンを貸与し、情報共有や効率化を図るとともに、高いセキュリティ環境を確保している。今後も、DXを推進し、安全性の確保と活動しやすい環境整備を進めていく。


民生委員・児童委員が集まる会議でも、モバイルパソコンを活用

問　**生活困窮や孤独・孤立、ヤングケアラーなど、分野を超えて複雑化・複合化した生活課題を抱える世帯が増え、支援する側の負担も大きくなっていると考える。市はどのような体制で課題解決に取り組むのか。**



答　庁内の関係所管で構成する会議において、生活課題や地域資源の情報共有を図り、分野を超えた横断的な対応を検討できる体制を整えている。また、医療・福祉など幅広い機関が連携して支援方法を検討するとともに、関係者の連携を強化するため、現場の支援者を支援する体制づくりを進めている。

高齢者

今後の認知症施策は

問　**9年度からの次期計画である高齢者計画・第10期介護保険事業計画では、認知症施策について、どのように進めていくのか聞きたい。**

答　これまでの計画に認知症との共生と予防を位置付けてきたが、現在策定中の次期計画にも盛り込み、推進していく予定である。認知症当事者や、その家族などの意見を次期計画に反映し、実効性のある施策展開を図りたいと考えている。

問　**認知症との共生を考える上で、当事者や家族が互いに支え合うために、相談や交流ができる「認知症カフェ」の果たす役割は大きいと考える。市の各日常生活圏域※で開催するなど、さらなる拡大が必要ではないか。**



物忘れや認知症について、気軽に話せる場である認知症カフェ

答　本市には、常設の認知症カフェがあるほか、高齢者あんしん相談センターや、民間のコーヒーショップなどでも認知症カフェを開催している。引き続き、高齢者あんしん相談センター等の運営支援を行うとともに、民間企業等の協力が得られるよう、施策展開を図っていく。

介護人材確保に向けたさらなる取り組みを

問　**高齢化の進展に伴い介護サービスへの需要が高まる中、介護人材の確保が課題となっている。介護人材確保には、市だけではなく都や事業者等と連携した広域的な取り組みが重要と考えるがどうか。**

答　都が実施する人材確保・育成に関する事業の周知等を図るとともに、都の介護人材担当者や、医療・介護事業者などが参加する懇談会を開催し、課題について情報共有等を行ってきた。今後も、連携して取り組みを進めていく。



※市民が住み慣れた地域で、適切なサービスを受けながら生活の質を維持して暮らし続けることができるように、地理的・社会的条件や施設の整備状況などを考慮して市域を区分したもので、現行計画では21圏域に区分している